

# 座標軸

## 安保国会を揺さぶる声

論説主幹  
大野 博人

国会は25日からの大幅な会期延長を余儀なくされた。圧倒的多数を握る政権にも安全保障関連法案は簡単に通せない。

揺さぶったのは議員たちの論戦だけではない。デモや集会、学者たちの発言、地方の公聴会……。カウンタードモクラシーとも呼ばれる、選挙以外の回路を経る、選挙以外の声も影響力を持った。

興味深いデータがある。国会議員を「とても」あるいは「少しは」信頼している人は25%弱、他方、学者

・研究者は約65%――。

大阪商業大学JGSS研究センターの調査（2012年）結果だ。全国で無作為抽出した数千人を対象に2000年から繰り返し調べている。ほかの社会制度の信頼度も調べていて、学者のほか自衛隊や裁判所、警察なども高い。70%を超える。あまり変動しない。

海外での同種の調査でも似た傾向が見られる。国会や政党はしばしば信頼度が最も低い部類に入る。

人々は自分が選んだ政治家より直接選んでいない専

門家をもっと信頼しているようだ。党派性に染まっていない人たちが公正な判断や行動ができると思うからではないだろうか。

### 違憲指摘に大あわて

国会に参考人として呼ばれ、安保法制を「違憲」と断じた3人の憲法学者の指摘に、政府や与党は大あわてだった。

「学者の意見に従って戦後の行政、政治が行われていたら、日本はとんでもないことになっていた」などと、学者を愚者扱いする発

言さえあった。

ではなぜ政治家はバカにしている人たちが国会に呼ぶのか。それは自分たちの信頼度の低さがわかっていからではないのか。参考人や有識者などとして議論に大学人らを加え、党派的な印象を少しでも薄めたいからだろう。

ところが、与党内で問題となっただけで参考人の「人選ミス」。識者を党派的に選ぶことへの後ろめたさのみじんも感じられない。これでは党派色を消す仕掛けとしても台無しだ。

### 選挙の後も耳傾けて

参考人をめぐる混乱があらためてあぶり出したのは、政治を独占しようとする今の政権の姿勢だ。学者の意見もデモの声も沖縄県民大会の声もちゃんと受け止めない。一票の不等の是正を求める司法にも耳を傾けない。

たしかに選挙の洗礼は受けている。「だが、代表制民主主義とは、何年かに一度投票所に行ったら、あとはおうちに帰っておとなしくしている、という制度で

はない」。そう話すのは、仏社会科学高等研究院のベルナル・マナン教授。米国の大学でも教壇に立つ代表制の専門家だ。

「選挙以外の声は代表制のうち一つの構成要素。代表する者たちは、代表される人たちに完全に代わることではない。選挙と選挙の間のデモや請願の声は騒音ではない」

選挙以外の声の価値をおとしめても、議会や政府の権威が高まりはしない。むしろ人々の政治不信がさらに深まるだけだろう。